

お化け

RACCHO

March 31, 2012

1 お化けは実在するか

科学的な話をしよう。人から魂だけが抜け出して人を襲うというのにはあり得ない。それは誰もが納得する所。しかし、私たちは恐怖を感じると、お化けを見た気分になる。とくに悪夢をみているとき。そういうとき、私たちは、「お化け」という得体の知れない魂に襲われることになる。そう、私たちには見えるのに、科学的には、ありえない。そういうシロモノである。じゃあ、お化けって一体何なのか。お化けは実在すると言えるのだろうか。

私たちがお化けとって想像するのは、だいたい夜の墓場だと思うが、そこはどういった場所であろうか。辺り一面暗闇で、よく見えない。しかも入り組んでいて、出る事ができない。まさしく不安をかき立てる場所である。そこで、何か変な音がしたりして変化があると、その不安は一気に恐怖へと変わる。振り向けばお化けが自分の魂を吸い取っている…。まあ、そんな場所である。ここで大事なのは、夜の墓場というのは、恐怖をかき立てる次の3要素が揃っている場所だということ。

- 光が無い。周囲の様子がわからない。状況把握能力の遮断。
- いってもいっても同じような場所。出られないという錯覚を起こさせ、帰巢本能を著しく苦しめる。しかも時々行き止まりがある。
- 入り組んでいて、時に足をぶつける。寒かったり、暑かったり、湿っていたり、乾いていたり。環境の悪条件が揃って、体が休憩したがるが、脳は恐怖で動き続ける。段々体がいうことをきかなくなってくる。⇒パニック

いかにも恐怖がわき起こる場所ですなあ。そう、私の主張では、お化けというのは、ことばにならないぼんやりとした恐怖心が形になって出て来たものなのだ。物質的に、お化けが存在する訳ではないが、人間の恐怖心というかたちで、お化けは存在し続ける物だということはあるのじゃあないか？

2 お化けの概念はどこからきたのか

では、なぜ人間のぼんやりした恐怖心という物が、お化けという形になって顕在しているんだろう。お化けという概念を知らない人なら、ぼんやりとした不安を感じる事はあっても、お化けが出てくる事はないだろうもの。例えば、そういう人のうちで、サメに襲われた経験のある人なら、悪夢には、墓場のお化けではなくて海のサメが出てくるはず。ならばわれわれはどこから墓場のお化けという概念を手に入れたのだろうか。

それは、先祖や親、昔話から。

親が子どもを教育する時に、「そういう悪い事をするとおばけがでるぞ～」と言ってやれば子どもは「ぼんやりした」恐怖心から納得してくれる事が多い。親としては楽。

また、昔話の「こわ～い」お化けが夜の墓場にいるのは、昔話の教訓。童話やわらべうた、昔話は、人間が生きていくための教訓を子供たちに与えるために作られた物だからね。夜の墓場のお化けの昔話の目的は、夜の墓場に対する恐怖心を植え付ける事によって、子供たちに、「夜に墓場にはいってはいけないよ。」という教訓を与える事。昔は夜になると墓場には、墓泥棒などの危険人物が沢山おったそう。そこに不用意に子どもが入ってしまったら、子どもがそう言った人たちに襲われたり、誘拐されるかもしれない。それを分かりやすく伝えるために昔話が作られたのですな、納得。